

# 「感染症対策強化」のポイント

## 手指消毒

手指消毒薬はたっぷりつけて、乾くまでこすり合わせる



- ★ 児童生徒や教職員の動線を考えて手指消毒薬を設置し、習慣化
- ★ 詰め替えた日時を記録し、使用量から実際に使用している状況を確認
- ★ 多くの人に触れるもの・場所に手指消毒薬を設置し、使用者が使用後に手指消毒を徹底



## 3密の回避



- ★ 集団感染のリスクが高い更衣室は、別部屋を設けるなどして分散
- ★ 「着替えはすみやかに」「会話をしない」などのポスターを更衣室内に掲示
- ★ 集団感染のリスクが高い食事をする場所では、間隔を空けて一方向を向いて黙食(会話は食べ終わってからマスクをつけて)

# 換気

★教室などを使用するときは常時換気

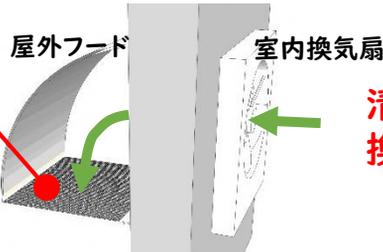
★CO<sub>2</sub>濃度計があれば濃度をチェックし、窓の開け幅や換気量を調整

## 換気装置のある教室



窓設置の換気扇

屋外フード内の防虫網がほこりで詰まっているかも



清掃して正常な換気量を確保



天井設置の換気扇



ドアのガラリ

※ドアのガラリがある場合は、ドアやらん間を開ける必要はない



天井設置の熱交換換気

※ドアやらん間を開ける必要はない。



✗ 換気扇ではない

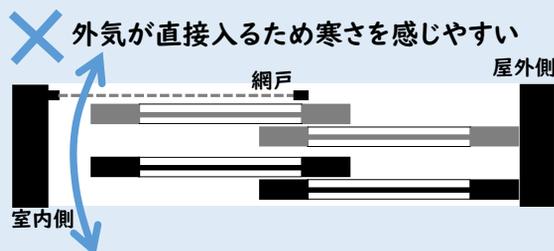
エアコン

※通常、エアコンが設置されていれば、別に換気扇が設置されている

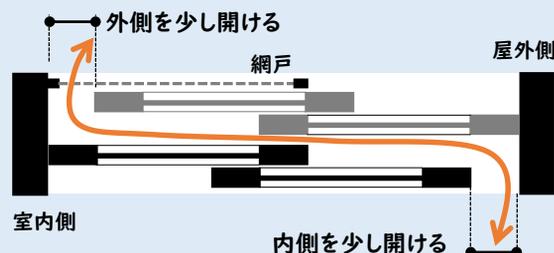
## 換気装置のない教室

必要以上の室温の低下を防ぐため・・・

- ① 二重窓の場合、外側と内側を互い違いに開ける。同時に廊下側のドアを窓の開けている面積の4倍くらいを目安に開ける。



○ 外気を窓の間で少し加温するためやや寒さを緩和できる



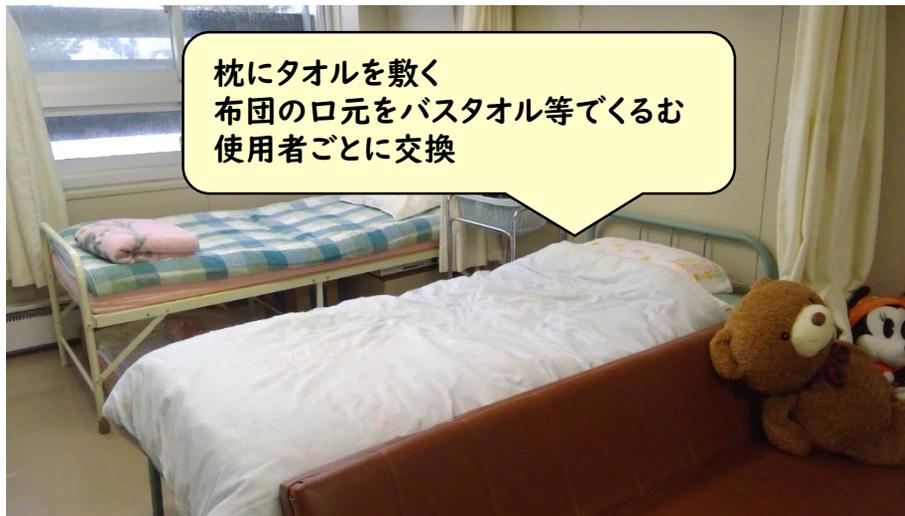
- ② 教室に入る冷たい空気は下に落ちるので、ストーブの上の窓を開けて空気を暖める



※ 詳細については、今後、北海道立総合研究機構北方建築総合研究所の検証結果を踏まえた資料を発出予定

# 症状がある児童生徒への対応

- ★ 可能な限り、症状がある児童生徒等は、保健室以外の場所で休養
- ★ 枕と布団の口元の部分はタオル等を使用し、使用者ごとに交換
- ★ 症状がある児童生徒等と接するときは、フェイスシールド等を着用  
(必要に応じて児童生徒等及び保護者に事前説明を行う)



自分自身を守る  
ために  
接する児童生徒  
等を守るために



## 感染症対策に「特別」はありません 「基本」をしっかり行うことが大事です

- ★ 手洗いの効果はとて高い  
ハンドソープで10秒もみ洗いし、流水で15秒すすぐと、ウイルス量が1/10,000に！
- ★ マスクは不織布が効果が高い、マスクなしで会話はしない  
マスクを外しているときに、「話をしない」意識を定着。
- ★ 「症状がある場合は登校しない」ことを徹底  
軽い症状でも、「症状がある」と言いやすい雰囲気づくりが重要。

